

# 箱根の旅 2018



2018年7月

旅のチカラ研究所 植木圭二

友人たちと7月7日より1泊2日で箱根に行ってきた。箱根フリーパスを利用した旅で登山電車、ロープウェイ、海賊船やバスを乗り継ぎ気ままな旅が出来たので紹介する。

## ■気ままな旅

同行した友人たちとは、私が定年までいた職場の同僚たちで、まだ現役社員である。とはいっても全員が50才以上で、もう少しで定年を迎える定年予備軍もいる。

この5人の旅が実現するきっかけは、私がいた頃から職場懇談会第二部と称して毎月のように公式？な飲み会を開催しており、少し形は変わったが今でも続いている。そんな気の置けない仲間たちで一度旅行をしないかと声を掛けたら、今回のメンバーが集まった次第である。企画・運営がOBの植木という社員旅行モドキの旅になる。

9時45分に小田原駅集合にしたので、少し早く着いた私はみんなの到着を待つ。小田急線以外にJR東海道線でも来られるので、2名は東海道線でやって来た。そしてロマンスカーで先に着いてお茶を飲んでいた者もいる。やはり小田原駅集合にしたのは正解だったようだ。

小田原から箱根フリーパスという便利な切符がある。もちろん私のように海老名から乗車した場合は、少しの追加料金で乗ることが出来る。それはこの切符が小田急グループ系の切符だからで、新宿から乗る個人旅行の外国人観光客の多くはこの切符を手に入れている。何しろ小田急線、箱根登山鉄道、ケーブルカー、ロープウェイ、芦ノ湖の海賊船、バスという乗り物が2日間乗り放題で4000円なのはありがたい。

あるエリアの乗り物全てが乗り放題という切符はヨーロッパなどでは多く私も結構利用したことを思い出す。その時の気分で自由に乗り降りできるというのは、気ままな旅には持ってこいだ。

## ■箱根山戦争

箱根温泉という言葉は最近のもので、昔は相州宮ノ下の湯とか、相州湯元の湯などと言っていた。つまり箱根という地名は神奈川県西部に広がるリゾート地帯を示すものではなく、もっと狭い地域の呼び名であった。ところが戦後になって小田急グループと西武グループがこの一帯を

競って開発して箱根として売り出したので箱根温泉などと実態のない温泉名が定着してしまう。

この開発競争は別名箱根山戦争などと呼ばれていた。もともとは富士山を臨み、芦ノ湖がある風光明媚で、歴史もあり首都圏からも近いという立地条件抜群の地域だが、この開発競争によって日本屈指の温泉リゾート地域になっていった。

企業でも人間でも、ライバルがいて競い合うほど成果を生み出すという典型的なものだ。

この箱根フリーパスは小田急グループの乗り物は乗り放題であるが、西武グループの乗り物には乗れない。いや若干の割引で乗れるものもあるが、この辺りの事情は理解できるものも開発競争は完全に次の段階にはいつているのだから大人の対応もして欲しいというのが皆の意見である。

## ■大涌谷ロープウェイ

早雲山からロープウェイの乗り込むと既に硫黄臭がする。

下界はほぼ無風であったにも関わらず、大涌谷の真上をゴンドラが通過するときには、硫黄臭も強くなり、風も相当に強い。このロープウェイは強風で運航中止になる旨が各所に表示してあるのが納得する。



大涌谷名物の真っ黒な温泉玉子が売っている。普段ここに来てあまり食べたことがないが、ちょうど5個500円で売っているので、買って食べることにする。

当たり前の話ではあるが、外は黒くて異様な感じだが、中身は至って普通のゆで卵だった。

ロープウェイの終点の桃源台の駅近くに食堂が点在する。名物のワカサギ料理というのが目に留まり、これを頂くことにする。もちろんビールも付けてだ。これが電車旅の良いところだろう。

本当にこのワカサギはこの芦ノ湖で獲れるのだろうか。そんなことが話題になり、勘定を払う時に店の人に聞いてみる。するとこの芦ノ湖で獲れたものだと、ただしこの時期は獲れないので、昨年獲ったものを保存していたという。一同納得する。

ワカサギは漢字では「公魚」と書く。これは霞ヶ浦のワカサギを将軍に献上していたということからこのように書くのだが、これは知識無くしてはとても読めない。

#### ■海賊船で元箱根へ

芦ノ湖を遊覧する海賊船に乗り元箱根港に行く。行く途中に箱根関所近くの箱根港立ち寄るが、ここでも多くの観光客が乗ってくる。ほとんどが外国人で、その半分以上は中国系だ。そしてみんなこの箱根フリーパスを持っている。

それに対して、西武系列の観光船には人がほとんど乗っていないのが印象的だ。



ところで、この元箱根はなぜ「元」なのか、地方の名物に良くある元祖と本家というようなものだと思ったが、調べてみるとちょっと違う。

江戸時代初期に箱根に関所をつくるにあたり現在の元箱根の住民が反対したために、京都寄りに新たに関所を設置したという。関所のある方を箱根と呼ぶようになったのでそれまでの箱根には「元」を付けて元箱根に名前を変えたということである。

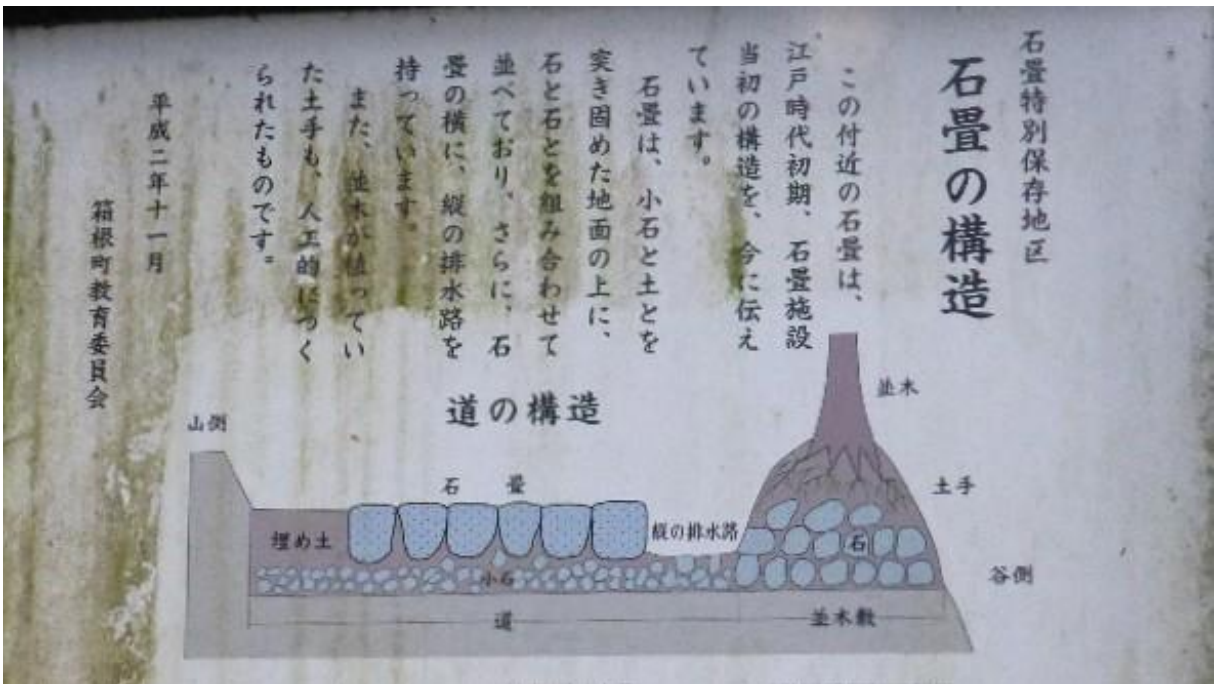
地名はやはり面白い。あらゆる地名には、歴史やエピソードがある。

#### ■旧箱根街道

芦ノ湖の元箱根港近くから二子山方面に少し歩くと、旧箱根街道石畳の道という標識がありそこから1km程の区間は石畳の道が山の中に続いている。箱根観光ではちょっと有名な道ではあるが、歩く人は少ない。

江戸時代の初期に幕府の街道整備事業によって出来たものなので既に400年くらい経っている。その間にどれほどの人々がこの石畳を歩いたのか。こんな道が未だに多く残っているのだから、箱根を歩くことは実に面白い。





### ■ 芦之湯に泊まる

箱根温泉という言葉は最近のものだと書いたが、今回の宿泊の芦之湯温泉は開湯が鎌倉時代ということで箱根の中では由緒正しい(?)温泉だ。

宿は「きのくにや」旅館という、歴史ある旅館に泊まる。芸術家、政治家の常宿だとか、箱根駅伝のルート上にあり往路ゴールに程近いので、正月は選手たちもここに泊まっている。

「箱根の山は天下の剣・・・」の歌「箱根八里」は滝錬太郎が作ったものだが、この旅館に滞在中に作ったという。そんな歴史を感じられるので私も何回も利用している。

写真はこの宿の廊下を撮ったもので歴史ある旅館の雰囲気伝わると思う。



そして温泉は濁り湯の硫黄泉でとても気持ちが良い。

露天風呂は芦ノ湖の形をしている。目の付け所としては面白いアイデアだろう。私は何度か泊まっているので知っているが、そのことを宣伝、告知していないのが残念だ。友人たちに言うと驚いて、そして納得する。

宿のおじさん一押しのお古くからある「正徳の湯」という源泉に入る。小さな小屋の中に濁り湯と透明の湯の2種類の湯船がある。なかなか風情のある湯で、彼が必要以上に勧めてきた訳も分かるような気がする。

夕食後の部屋では宴会が続く。

夜も更けて10時半頃、正徳の湯に入るので外に出ていると、こんな時間に到着するお客がいる。宿の人に聞くと、まだ早い方で深夜1時、2時というお客もいるという。さすがに首都圏に近い温泉だけある。

それにしてもやって来たお客はおそらくは訳ありカップルなのだろう。人目を気にして宿の中に消えていった。

#### ■箱根駅伝

宿の前のバス停で待っていると10人くらいの若い男女が、集まって準備体操のようなことをしている。どうやらマラソンランナーのような感じがする。彼らは私たちが乗ったバスの発車に合わせて走り始める。

ここは箱根駅伝のルート上ということに気が付く。

このバス停から少し行ったところに国道1号線の最高標高874m地点がある。そのためか日差しはあるものの涼しい。



バスの終点の箱根港の近くには、正月の箱根駅伝の往路終点と復路出発点の碑が立っている。そしてすぐ近くには箱根駅伝ミュージアムもある。やはり、ここは箱根駅伝の聖地だ。

#### ■箱根関所跡は有料？

箱根の関所跡に立ち寄る。私の記憶では確か無料だったが、何やら料金所があり有料のようになっている。窓口で一体いつから有料になったのか聞いてみると、関所を通過するだけならば無料だという。詮議する部屋などの付帯施設を見学する料金だという。

これはひどい。知らない人はきっと金を払ってしまうだろう。まあ、しかし関所とは昔からそんなところなのかも知れない。昔は貴重な収入源になっていた。



#### ■かつての箱根離宮

箱根には著名人の別荘がたくさんあるが、天皇家の別荘も箱根にあった。ただ天皇家の場合は別荘と呼ばず離宮と呼ぶ。

その箱根離宮は明治 19 年に建てられ、以後使われていたが昭和 5 年の北伊豆大地震で建物が倒壊したので、それを契機に神奈川県に管理が移り箱根恩賜公園となっている。

日本国内を旅すると、ちょっと歴史を調べただけで至る処で火山の噴火、地震、津波があったことが分かる。

この公園は箱根の関所跡の隣で、芦ノ湖湖岸に突き出た半島全てが敷地になっている。半島全体が小高い山で、その頂上に昔の離宮に模した 2 階建ての洋館がある。目の前には芦ノ湖が広がり、箱根の外輪山の向こうには富士山を臨めることができる一等地だ。

箱根に何度も足を運んでいる私だが、この公園は初めて訪れる。公園内に展望ポイントが 8 カ所あり、全てを見ても 1 時間ほど歩いて回れる。あまり観光地として紹介されていないので観光客は少ない。

ここはいわゆる穴場だろう。公園は無料開放されていて、県立なのでメンテナンスも良い。もちろん洋館にも無料で入ることができる。休憩かねて洋館の喫茶コーナーでお茶をすることもできる。

富士山も少し顔を出し始めたので、洋館の2階バルコニーから写真を撮る。ここが箱根の一等地であることが分かる。秋から冬の時期に来れば紅葉とあわせて富士山の雄姿も見る事が出来るだろう。





## ■箱根神社

芦ノ湖畔の森の中にたたずむ古い立派な神社が箱根神社である。芦ノ湖に突き出て鳥居が立っており、そこから参道がまっすぐに延びて、いくつかの鳥居をくぐって本殿にたどり着く。この湖に突き出た鳥居こそが正面玄関なのだが、我々一般の参拝者はその参道に途中から入る。

箱根神社は正確に言えば箱根神社と九頭龍神社の新宮も同居している。

芦ノ湖の九頭龍伝説を今に伝える龍神信仰の聖地であり、多くの人々に開運隆盛はもとより金運、商売繁盛、縁結びの龍神様として崇められている。





この神社は日曜日の昼ということもあり、参拝するには10分くらい並ばないといけない程の賑わいである。ついでに神社の正面玄関の鳥居にも人が並んでいる。湖に突き出た鳥居の下で写真を撮るのが目的だろう。いわゆるインスタ映えするからだ。

#### ■打ち上げで思う

小田急線の風祭駅に直結するように「かまぼこの里」がある。かまぼこで有名な鈴廣がやっている試食・販売の店で、中は相当に広い。

ここでは生ビール片手に、試食コーナーでかまぼこをつまみながら土産を買うというのがお勧めのパターンだ。

ビール片手に簡単な打ち上げをしていると、職場の仲間といく旅行についてつらつら考えてしまう。昨今は社員旅行が無い会社や職場が当たり前ようになってきたが、私が入社した40年前は私の職場でもしっかりと社員旅行があったことを思い出す。社員旅行の是非についてはここでは触れないが、今回のように仕事仲間と行く旅行も興味深い。

私は、旅を非日常への移動と定義している。職場は日常の最たるものなので、その旅の定義からすると社員旅行や職場旅行というのは位置づけが難しいと思うかもしれないが、そもそも旅とは日常を充実させるものである。こういった職場の仲間といく旅行は職場の活性化につながる可能性が高い。

ただし職場の仲間の場合は、愚痴の言い合いになったり説教になったりする可能性もあって、上手くやらないと旅はつまらなくなり、職場の雰囲気も悪くなる。そんな負の効果が会社や職場での旅行、宴会が少なくなっている原因かもしれない。

旅とは冒険であり挑戦である。そして旅は人を幸せにできる道具・手段でもある。だから上手に旅を活用できれば、職場や仕事に必ずプラスに働くことになるだろう。

それが旅の持つチカラだと信じて止まない。